諭さしめ、他方には勝安房、山岡鐵太郎等をして西郷隆盛に就て、具に慶喜恭順の狀を陳べ討伐を停めんと請ふ。然るに彰義隊の激徒愈奮慨し會津其他奥羽諸藩の應援を得て、稍もすれば西軍の既に江戸にあるものに抗す。依て朝廷は慶喜の恭順を容れ一時中止せる征討軍の一部を以て彰義隊追討の軍隊を作り、大村益太郎を隊長として五月十五日未明湯島、本郷の諸口より上野を砲擊す。時恰も大風雨に際し東西兩軍相迫まつて奮戰せしが、彰義隊終に敗れ、其徒親王を奉じて會津に走りしかば事平ぐ。是より先き幕府征討の軍は西郷隆盛の斡旋により進伐を停め、慶喜は江戸城及軍艦軍器を致し、死一等を減ぜられて水戸に退居せしめられ、德川氏の宗家は家達をして繼がしめ駿河、遠江及陸奥の地七十一萬石を賜ふことなり。江戸は無事に治まるを得たり。

四　五條の誓文

答 明治元年三月十四日天皇南殿に御し、總裁、議定、參與の諸官を悉く率ゐて天神地祇を祭り、五事を誓約せらる。即ち

一　廣く會議を興し萬機公論に決すべし。

二　上下心を一にし盛に經綸を行ふべし。

三　官武一途庶民に至るまで各其志を遂げ人心を倦まざらしむ。

四　舊來の陋習を破り天地の公道に基くべし。

五　智識を世界に求め大に皇基を振起すべし。

と是なり。是を五條の誓文と云ふ。是れより施設せらるゝ所皆之に基かざるなく、開國の事も明さなり、門閥情實の弊も打破せられ、やがては立憲政体の基を開くことゝはなれり。

五　官制の改革

答 從來我邦の官制は立法、行政、司法の區別なかりしに元年閏四月亂の五事の誓文に基き、太政官を分ちて議政、行政、神祇、會計、軍務、外國、刑法の七官とし、又其翌年には更に改めて太政官の下に民部、大藏、兵部、刑部、宮內、外務の六省を置き、神祇官を太政官の上に置くことゝせり。

六　天長節を定む

答 明治元年八月廿七日天皇即位の禮を紫宸殿に行ひ、明治と改元し一世一元の制を立て、舊制を復して御生誕の日を天長節とす。

七　奥羽函館の戰役

答 會津藩主松平容保は先に慶喜に從つて伏見鳥羽に戰ひ、後敗れて江戸に在りしが、

容保はいたく薩長を惡むものから、慶喜の恭順を却て悅ばず、彰義隊と氣脈を通じて會津に歸り、其後仙臺、米澤、庄內、南部等と連合し、西軍に抗せり。西軍先に彰義隊を擊退し進んで奥羽を鎭めんとして軍を分ちて二となし、一は白河口より進軍し、他は越後口より進軍し先づ容保の據れる會津若松城に迫まる。城兵固く守りて降らず。依つて已むなく參謀伊知地正治、板垣退助等議して城を圍むこと月餘、其糧食皆盡くるに及び容保出降る。此に於て諸藩亦尋で降り奥羽全く平定す。時に元年九月。是より先き幕府の海軍副裁榎本鎌次郎、松平太郎、荒井郁之助等慶喜の恭順に不平なりし徒、軍艦八艘（開陽、蟠龍、回天、神速、長鯨、鳳凰等）を奪ひ、東北に走りて飽くまで西軍に抗し、幕府の再興を企らんと欲し、會津以下奥羽の諸藩と通じて海路西軍に抗す。後會津陷るに及び大鳥圭介と兵を合せ函館に至り五稜廓を奪うて之に據る。翌明治二年函館征討の西軍水陸並び進み函館に迫まる。東軍善く戰ひ西軍數利を失ふ。會々暴風雨あり軍艦破れ彈丸乏しく勢大に挫く、鎌次郎（後武揚と改む）等戰死を決し嘗つて和蘭陀にありて學びし筆記の散史を惜み、之を西軍に送り偖て五稜廓を閉ぢて籠る。西軍先の禮として酒五樽を贈り之を謝し、且つ切に歸順を勸む。榎本等士卒を助けんと欲し圭助等 出でゝ降る。是に於て國家全く平ぐを得たり。時に二年五月。

八 東京遷都の事

答 明治元年三月西軍の東征するや大久保利通奏して京都は地狹く僻在するを以て遷都すべしとなす。天皇之を聽許せられ、關東の平ぐるを待つて先づ東京に行幸し、翌二年三月終に皇居を江戸城に遷し此に君臨せらるゝことゝなれり。平安遷都以來實に千七十四年に當る。

九 藩籍奉還の次第

答 都は東京に遷され大權全く朝廷に歸したりと雖も藩主は尙ほ土地人民を私有し、政令一途に出でず、人民亦舊慣を以て藩主の命を重んずる傾あり。明治二年薩長の二藩先づ封土を奉還せんことを發議し、土肥の二藩亦之に應じ連署して上奏す。諸藩之に倣ひ封土返還を請ふもの陸續たり。六月天皇之を許し、藩主をして其舊藩の知事とし、歲入現石の十分一を俸祿とす。又東京、京都、大阪は之を府と呼び、幕府の舊領には縣を置き、皆知事を置きて統括せしむ。又此時公卿諸侯の稱を華族の稱に更む。

十 廢藩置縣

答 諸藩は版籍を奉還し府、藩、縣の三治の制となりしと雖も、藩治は猶ほ舊慣により て朝廷を輕んずる風あり。木戸孝允、大久保利通等畫策して、藩を廢し縣となし天下の實權を朝廷に集めんとし、三年十一月木戸、大久保、岩倉の三氏命を銜て天下の意志を

採る。各藩皆同意し却て是を請ふものあり。依て四年七月廢藩置縣の詔を下し新に縣知事を置き。舊藩知事は既定の俸祿を給して東京に移住せしめ、全國を分ちて三府七十三遣縣なせり。

十一　征韓論

答 開國に醉ひし明治政府は、維新前の反動として外交を盛にせんとし、屢々使を朝鮮にやりしに、却て之を受けざるのみか無禮の擧動ありしかば、明治六年陸軍大將西鄕隆盛大に怒り征韓の師を起さんと請ふ。參議板垣退助、副島種臣、後藤象次郎、江藤新平等其說を贊す。然るに先きに全權公使として派遣せられし岩倉具視、同副使木戸孝允、大久保利通、伊藤博文、山口尙芳等歐米各國の形勢を見るに及び征韓の不利なるを論じ、朝議漸く決す。隆盛、桐野利秋事の成らざるを知り職を辭して鹿兒島に歸り。鹿兒島出身の將士にして征韓論に左袒せるもの數十人亦相率ゐて官を去り西歸す。而して新平、象次郎、種臣、退助等亦官を辭す。人心恟々たり。

十二　民選議院の建白

答 明治七年一月副島種臣、後藤象次郎、板垣退助、江藤新平等連署して書を上り、民選議院を興し、諸國より代議士を出し、輿論公議を採り、國憲を立て、有司專制の弊を

矯め、大に國礎を建てんと請ふ。朝議贊するものあり。加藤弘之等人文未だ進まざるの故を以て早尙を唱ふ。後の憲法制定は實に此時に出づ。

十三　佐賀の亂

答 江戸新平曩に征韓論を唱へて許されず、民選議院の建白亦早尙を以て行はれず、不平に不平を重ね島義勇等と佐賀に歸り七年二月其徒二千五百餘人と亂を起す。政府大久保利通を派して之を討つ。新平敗れて鹿兒島に奔り、次で土佐に逃れ、遂に捕斬せらる。

十四　臺灣の役

答 初め琉球人臺灣に漂着し、生蕃の爲に殺さるゝもの五十四人、小田縣人亦殺掠せらる。依つて外務卿副島種臣條約を締結せんが爲め全權大使として淸國に在りしに命じ罪を支那に問はしむ。然るに淸國の答ふる所臺灣は管外なりと云ふを以てして顧みず。於此朝議討臺の議決し、七年五月西鄕從道を統督とし、谷干城、赤松則良を參軍とし、舟師蕃地に到り、兵を進めて、牡丹社、風港、石門等の地を破る。既にして討臺の軍到る處勝利を得生蕃の降服するもの多く東部臺灣を占領せり。是に至りて淸國俄に異議を提して占領を拒む。政府大久保利通をして全權公使とし行いて淸國に談判せしめ償金五十萬圓を出さしむ。但し英國公使の周旋を以て漸く出だせしなり。また從來一方は我國に屬

し、他方は支那に通貢し兩屬の風ありし琉球も、爾來全く我國の範圍内に屬するに至れり。後沖繩縣と改稱し内地同樣の政を布けり。

十五　唐太千島交換の始末

答 唐太は幕府の時開拓せしより南方の地には蝦夷人住して我に歸し、北方は雜種の土夷住して滿洲に屬したり。然るに滿洲地方露領となりしより自ら唐土北部も露領となり、之が爲我國と疆界論屢々起りて定まらざりき。後慶應三年全島を兩國雜居の地と定めしより露人南方に移住して蠶食の勢あり。而して千島は久しく擇捉島と得撫島との間を界とし。兩國之を分取せしが、八年公使榎本武揚をして露政府につき議せしめ、唐太を彼に與へ千島は我之を取ることに定む。

十六　神風連の亂

答 熊本の士族にして新政を喜ばざりしもの、百七十餘人、神風連を組織して九年十日鎭臺司令官種田政明の居宅を襲ひて之を殺し、また縣廳を侵して縣官士卒二百餘人を殺傷す。陸軍少將大山嚴鎭臺の兵を以て之を擊ち平ぐ。此時舊秋月藩士四百餘人また亂を圖る。小倉分營の兵擊つて平ぐ。また山口の藩士前原一誠亦神風連に應援せんとして萩に反す。尋で鎭定す。是皆當時の政府に慊らざりし徒なり。

十七　西南の役

答 曩に西鄕隆盛征韓論の納れられざりしより鹿兒島に歸りて桐野利秋、篠原國幹等と私學校を起し壯士を養ひしが、恰も神風連、萩の亂等起るに及び、是等壯士に擁せられ明治十年二月遂に兵一萬五千を擧げ、先づ熊本に來りて鎭臺を襲ふ。指令長官谷干城兵三千五百を以て固守す。其勢蔑ろべからざるなり。朝廷熾仁親王を總督とし、陸軍中將山縣有朋海軍中將河村純義を參軍とし、陸軍中將黑田清綱、同少將山田顯義等外働隊を率ゐしめ、征討せしむ。是等諸軍肥後八代より上陸し敵背を衝くに及び、四月熊本城の圍始めて解け、是より賊軍頓に衰へ鹿兒島に逃れしが、同九月其守城城山尋で陷りしかば隆盛等自殺して事平ぎぬ。

十八　國會開設の詔

答 後藤象次郎、板垣退助等の民選議院設立建議案は一度反對の聲によりて納れられざりしが、當時民權論盛にして國會開設の請願をなすもの相踵げり。此頃（十一年より十四年迄）天皇諸道を巡幸し、地方行政の狀を考へられしが、十四年七月北海道より還幸せらるゝの當夜、詔を下して來二十三年を期し國會を開設すべき旨を示さる。

十九 朝鮮の變

答 明治十五年七月朝鮮の暴徒等我公使館を襲ふ。公使花房義質遁れて仁川に至り、英船に搭じて歸朝す。後義質國王に謁し其全權大臣李裕元等と規約六條修好二條を議定し事平ぐ。其後十七年十二月朝鮮政府の廷臣事大黨の黨族起り、其反對なる獨立黨の大臣を刺す。我辨理公使竹添進一郎國王の請により兵を率ゐて王宮を警衛す。清國の兵暴徒を援けて我公使館を燒く。翌年特命全權大使井上馨往きて其罪を問ひ、損害要償金を出さしむ。事清國に關するを以て伊藤博文を支那に使し、天津に於て李鴻章と會し、爾後互に守備兵を京城に置かざることを約し、若し其必要ありし時は互に相通知せんことを約す。世に之を天津條約と云ふ。

二十 憲法發布

答 明治二十二年二月十一日紀元節の佳辰を以て、豫て約せられし憲法を發布せらる。是より先き伊藤博文等歐洲に行き各國の制度を取調べ、立憲制度實施の準備をなせしが、終に爰に發布せらる。憲法は七章七十六條より成り、天皇の大權、國民の權利義務、帝國議會、司法、會計等の事を規定せり。同時に皇室典範を定め皇位繼承、皇室皇族御料の事を明紀せり、而して翌二十三年豫定の如く第一帝國議會の開設を見るに至れり。

二十一 日清戰爭の顛末

答 其原因、朝鮮は曩に我國が啓誘して列國環堵の內に獨立國たらしめし國なり。而して清國と我國とは天津條約によりて其駐兵を撤し、爾來事なかりし、に猶ほ清國は稍もすれば屬國を以て是に對し京城駐劄公使袁世凱は韓廷の大臣閔泳駿等と結びて其內政に干渉し國政漸く紊るゝに至れり。加ふるに明治二十七年四月朝鮮に東學黨なるもの起り國政改革を名として兵を擧げ、諸道を陷れ京城に迫らんとして勢猖獗なり。官兵之を鎭定せんとして頻りに敗る。依て韓廷の外戚閔氏援を清國に乞ふ。清國此機に乘じ將に朝鮮を屬國となさんと欲し天津條約に背きて濫りに兵を出す。此に於て我國亦兵を發し清兵に先ちて京城に入り、公使大島圭介韓王に迫まりて弊政を改革せんことを勸む。時に清兵已に牙山に上陸するもの數千あり。韓王我軍に托して是を掃攘せんと乞ふ。我軍東洋全局の平和を維持せんと欲し清國と協同して共に事をなさんとし未だ發せざるに、會々七月廿五日我軍艦吉野、浪速、秋津洲の豐島沖を通過せる際、突然清國の軍艦我に向つて發砲す我軍大に怒り應戰して之を破り、敵艦操江を捕獲し、濟遠を走らせ、高陞を擊沈し、廣乙は暗礁に觸れて破壞し、清兵の溺死せるもの千三百人に及ぶ。既に此の如く海戰を以て其端を開きしより、仝廿九日先に混成一旅團を作りて京城に在りし陸軍少將大島義昌の部隊は先づ進んで成歡に在りし清兵を擁擊し、進んで牙山をつかんとせり。

然るに成歡破るゝと聞き牙山の兵戰はずして潰へ敵將葉志超等兵伏を棄てゝ走る。かくて翌八月一日天皇宣戰の詔を布告し、尋で大本營を廣島に進めらる。清國も亦開戰を布告し兩國の公使互に館を撤して歸り、列國多く局外中立を布告す。

其戰況　先に牙山に破れし清兵及び新に派出せられし清兵は平壤に據りて險を恃んで陣す。兵約一萬五千人、葉志超、衛汝貴、馬玉崑、左寶貴之に將たり。我國廣島、名古屋の二師團を合して第一軍とし、陸軍大將山縣有明其司令長官となつて、兵を四道に分ち、九月十五日進んで包圍して是を攻擊す。清兵支ふる能はずして自旗を立て降り即夜大雷雨に乘じて遁る。是を平壤の戰となす。第一軍是より進みて陸路清國に入る。かくて此戰爭の後二日海軍中將伊東祐亨を司令長官とせる艦隊は、北洋水師提督丁汝昌を戴き、陸兵を載せて平壤の難に赴かんとせる清國の艦隊と黄海の海洋島附近に於て會し、大に之と戰ふ、清艦致遠、經遠、超勇、揚威、廣甲の五艦を蟲沈し、平遠、來遠、廣甲の諸艦を火き、定遠、鎮遠、を敗走せしむ。清國の海軍爲に一頓挫し勝敗の運早く定まる。以上二戰爭に先つこと數日天皇別に、第二軍を組成し、陸軍大將大山嚴を司令長官に補し、盛京省花園河口に上陸し金州城を畧取し、大連灣を取り遂に旅順の砲臺を奪ひ、また其一部は山東省の榮城灣に上陸し、海軍と相待つて威海衛を攻め之を陷る。而して第一軍も大同江を渡り清境に入りし後は海城を陷れ、蓋平、牛莊、營口の諸壘を畧取し、奉天府の南半概れ我が有に有せり。次で三日六日陸軍大佐比志島義輝を混成技隊長とし澎湖

島を襲はしむ。

其結果　明治廿八年清國總理衙門北洋大臣兼直隸總督李鴻章及び李經芳を全權大臣として馬關に來らしめ、和を請ふ。天皇內閣總理大臣伊藤博文、外務大臣陸奥宗光を全權辨理大臣として談判せしめ、清國をして朝鮮の獨立を承認し、奉天省の南部の地、及び臺灣澎湖島を割讓せしめ、銀二億兩を六個年に賠償せしめ、日本人の爲に更に清國の四港を開く事等を條件として所四馬關條約を締結せしむ。天皇大に嘉納し、國民亦悅服せしに此時に當り露、佛、獨の三國は日本が遼東半島を永久に新領するは東洋平和に不利なりとし、其條約中より除かんことを慫慂す。政府遂に之を容れ惠を隣邦に加へ、更に償金として三千萬兩を收むることに改め、事平ぐ。是より國威頓に上り、絕東の孤島國は優に世界最强國の一となれり。

二十二　北清の役

答　卅三年五月北清に居る一部の宗教徒義和團なるもの匪徒を嘯集し外教退治と外人壞斥とを目的として頻りに北京、天津間及蘆韓鐵道を破毀し、また北京天津に居留せる外人に危害を加ふ。官兵攘へども鎭まらず。於此乎列國公使は各自其兵を入れて公使館及び居留民を保護し、猶ほ續々水兵及び陸兵を入陸せしむ。依て匪徒ます〳〵危害を逞うし事漸く大ならんとす。我國駐清公使西德二郎急報を發して出兵を請ふ。我邦先づ分遣

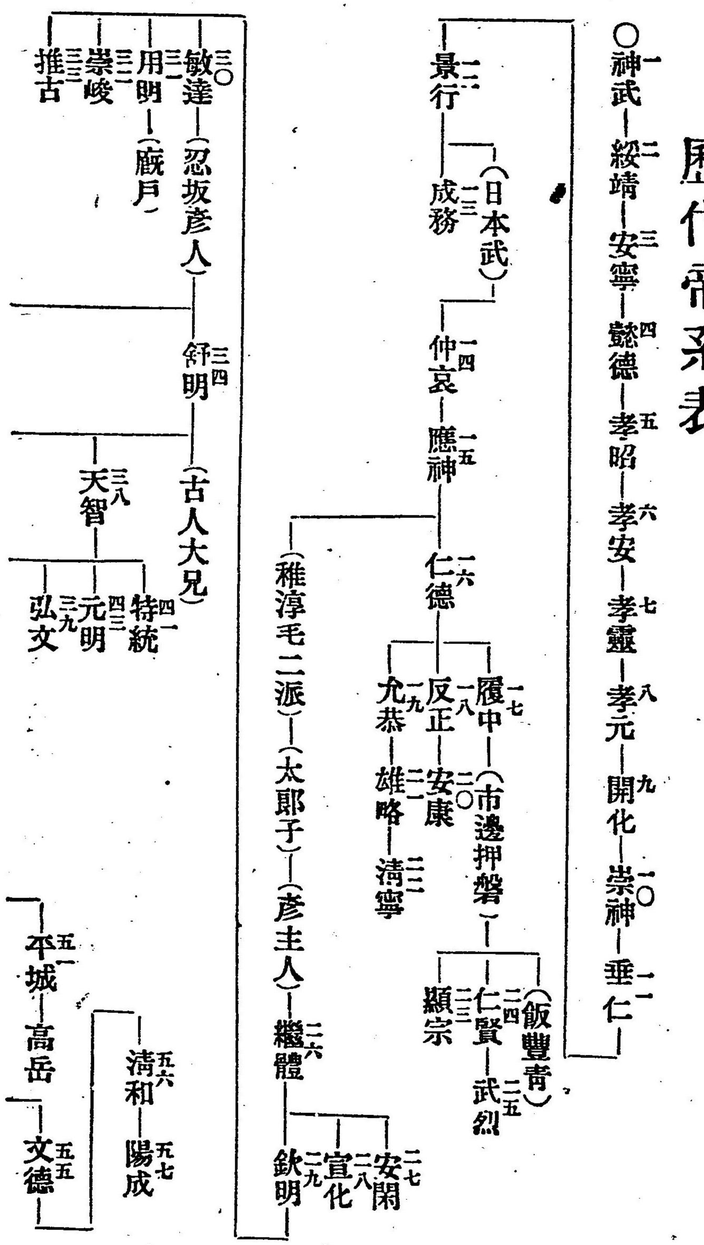
兵を出す。書記生杉山彬之を迎へんとして道に清將薫福祥部下の馬隊に慘殺さる。因つて事變益々急なるを覺へ、閣議第五師團を派遣することに決し、六月十六日其第十一聯隊より組成せる混成組織の第一大隊を送り、尋て七月十三日陸軍中將山口素臣を總指揮間とし後陸續派遣して各國軍と聯合せしめ、先づ天津より北京に入り、終に北京を占領せり。此に於て團匪亦抗するものなく、先に出征せる第五師團も其一部を北京に駐めて山口師團長之を引卒し明治廿四年七月十八日凱旋せり。此役我軍の努力は歐米軍隊の間に在りて嶄然頭角を露はし、國民の名譽を高からしむるを得たり。

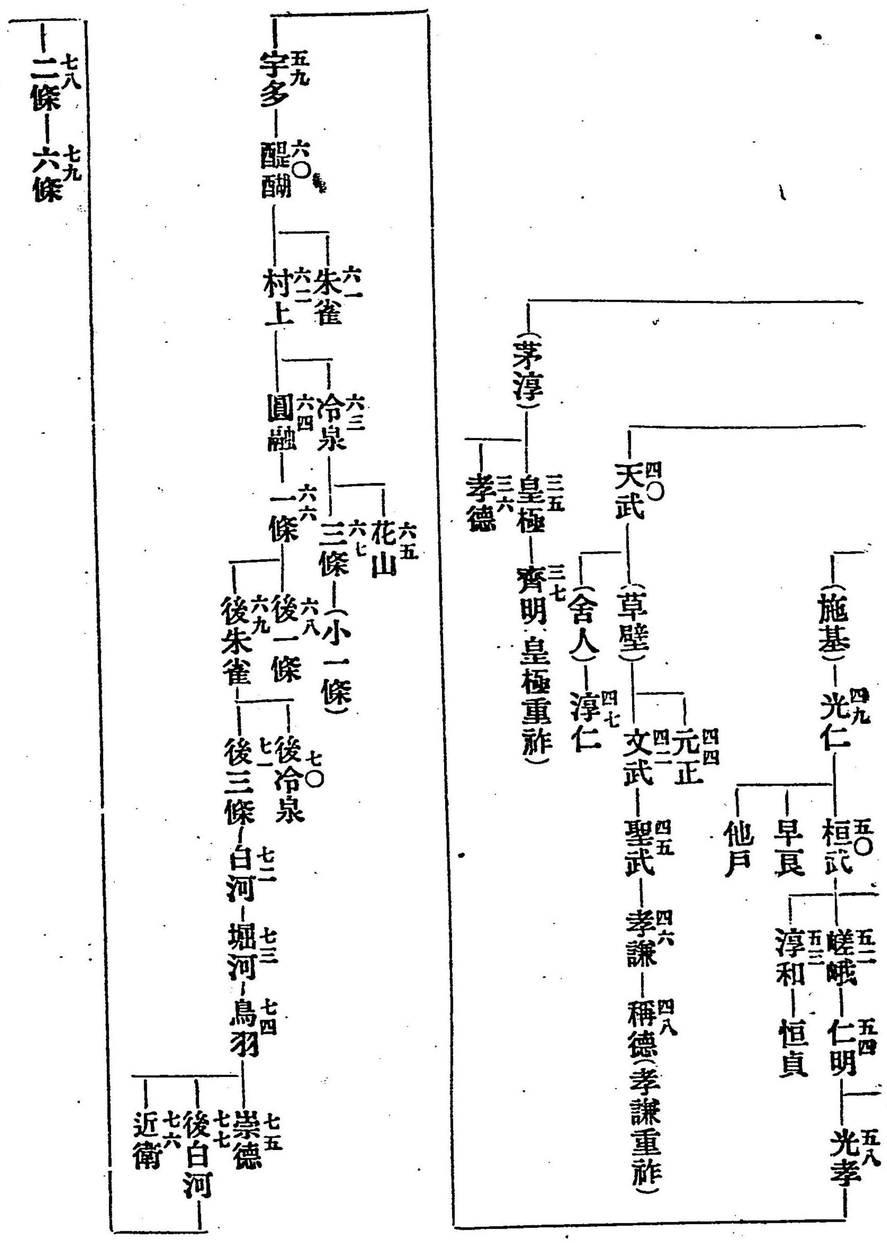
二十三　日英同盟

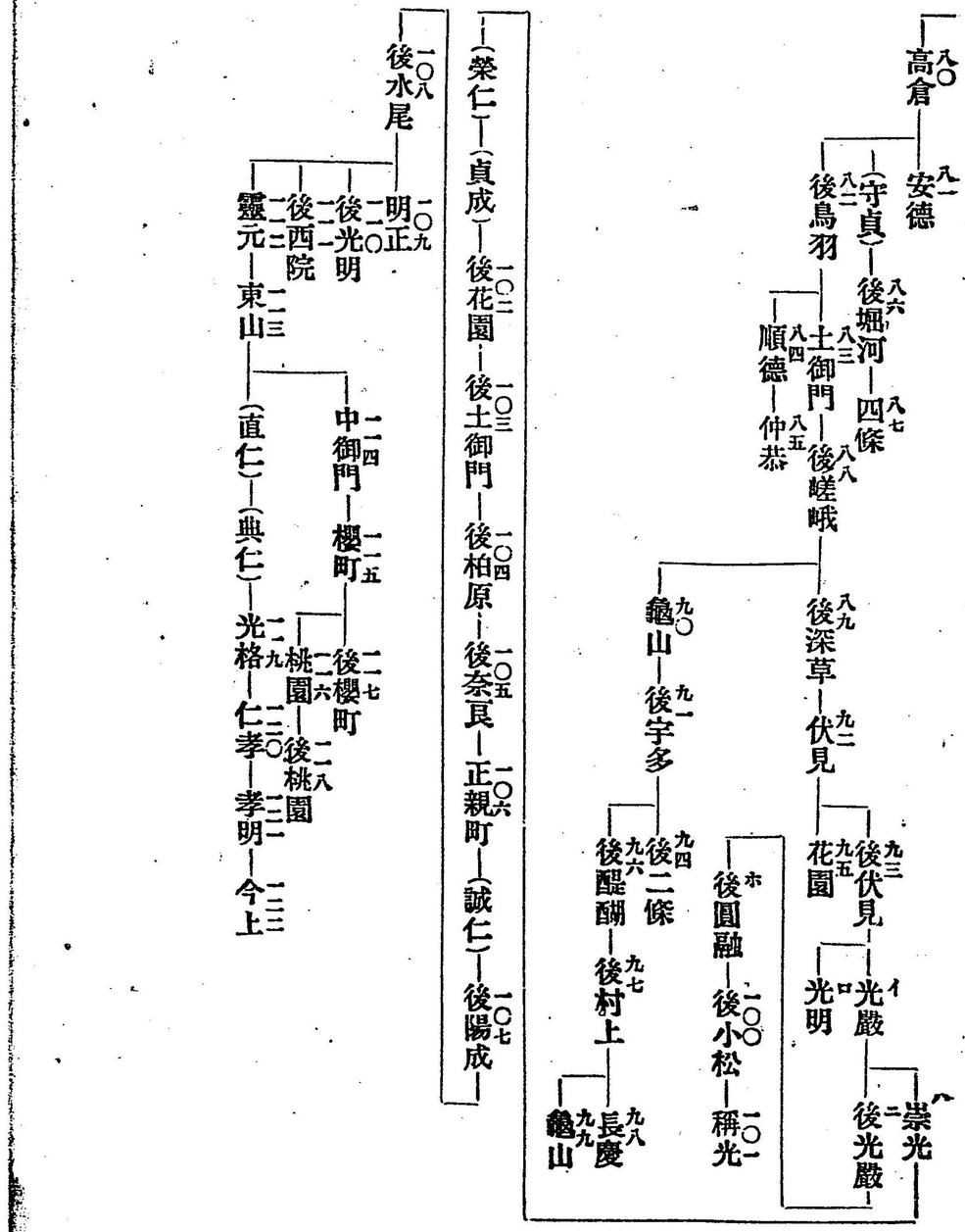
答 明治廿七八年の戰役以來、極東の地事件多く、歐米諸國虎視眈々として之に臨み、稍もすれば平和を破るの樣なきにあらず。而して日英兩國深く此地に利害を有するもの、曩に加藤高明外相たりし時其同盟を組織せんと欲して先づ其端を開き、小村壽太郎後を襲うに至り、駐英公使林董全權大臣となつて此間を斡旋協商し、爰に明治廿五年二月十二日其條約を發布す。同盟の眼目は主として極東に於ける現狀及全局の平和を維持するものにして其期間五ヶ年なり。發布せられしを喜ぶもの獨り日英兩國民のみならず宇内の列國皆な祝慶の意を致せり。

附錄

歴代帝系表

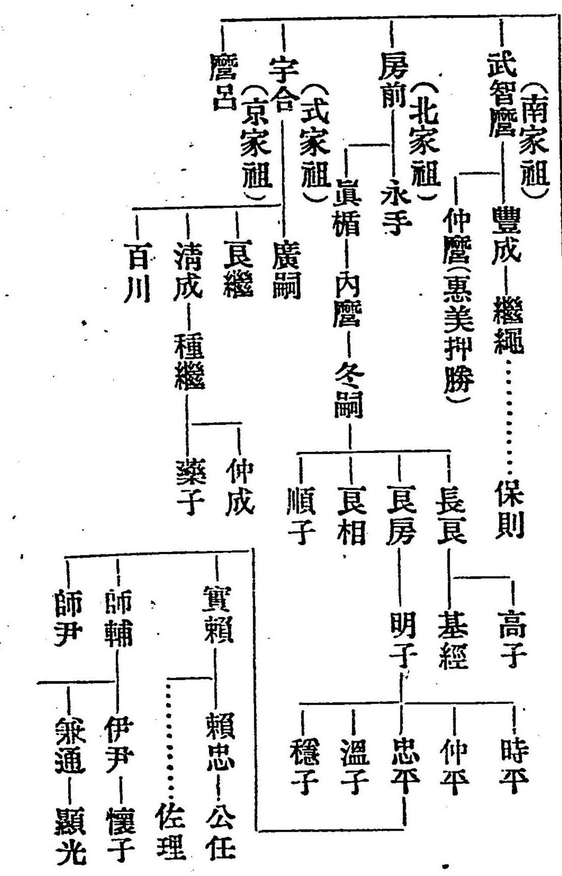


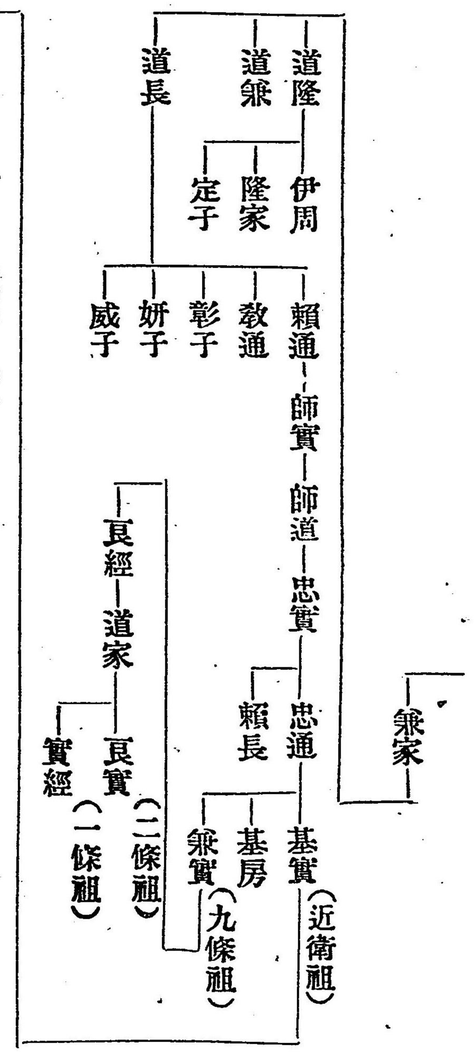

天武 四〇
(草壁) 四一
(舎人) 四七 淳仁
元正 四四
文武 四二
聖武 四五
孝謙 四六
稱徳(孝謙重祚)
(施基) 四九 光仁
桓武 五〇
他戸
早良
淳和 五三
恒貞
嵯峨 五二
仁明 五四
光孝 五八
(茅渟)
皇極 三五
孝徳 三六
齊明(皇極重祚) 三七
宇多 五九
醍醐 六〇
朱雀 六一
村上 六二
冷泉 六三
圓融 六四
花山 六五
一條 六六
三條 六七
(小一條)
後一條 六八
後朱雀 六九
後冷泉 七〇
後三條 七一
白河 七二
堀河 七三
鳥羽 七四
崇徳 七五
後白河 七七
近衛 七六
二條 七八
六條 七九

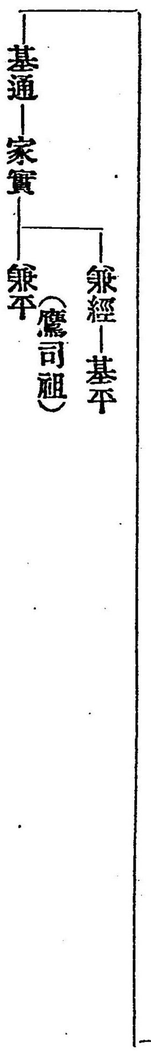

高倉 八〇
安徳 八一
(守貞) 八二
後堀河 八六
四條 八七
後鳥羽 八三
土御門 八四
後嵯峨 八八
順徳 八五
仲恭
後深草 八九
伏見 九二
後伏見 九三
花園 九五
光嚴 イ
光明 ロ
後光嚴
崇光 ハ
後光嚴
後圓融 ホ
後小松 一〇〇
稱光 一〇一
龜山 九〇
後宇多 九一
後二條 九四
後醍醐 九六
後村上 九七
長慶 九八
龜山 九九
(榮仁)
(貞成)
後花園 一〇二
後土御門 一〇三
後柏原 一〇四
後奈良 一〇五
正親町 一〇六
(誠仁)
後陽成 一〇七
後水尾 一〇八
明正 一〇九
後光明 一一〇
後西院 一一一
靈元 一一二
東山 一一三
中御門 一一四
櫻町 一一五
後櫻町 一一七
桃園 一一六
後桃園 一一八
(直仁)
(典仁)
光格 一一九
仁孝 一二〇
孝明 一二一
今上 一二二

歷朝覇者系譜

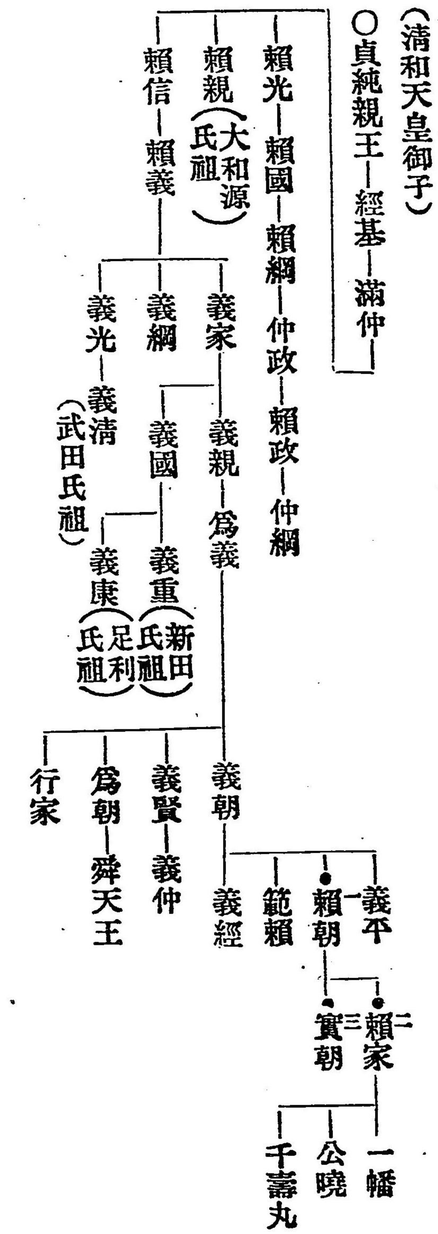
一 藤原氏


(天兒屋根命二十二世孫)
○鎌足—不比等—
武智麿(南家祖)
豐成—繼繩……保則
仲麿(惠美押勝)
房前(北家祖)
永手
眞楯—內麿—冬嗣—
長良
基經
高子
時平
仲平
忠平
明子
良房
良相
順子
溫子
穩子
宇合(式家祖)
廣嗣
良繼
實賴
賴忠—公任
……佐理
麿呂(京家祖)
清成—種繼—
仲成
藥子
百川
師輔
伊尹—懷子
師尹
兼通—顯光

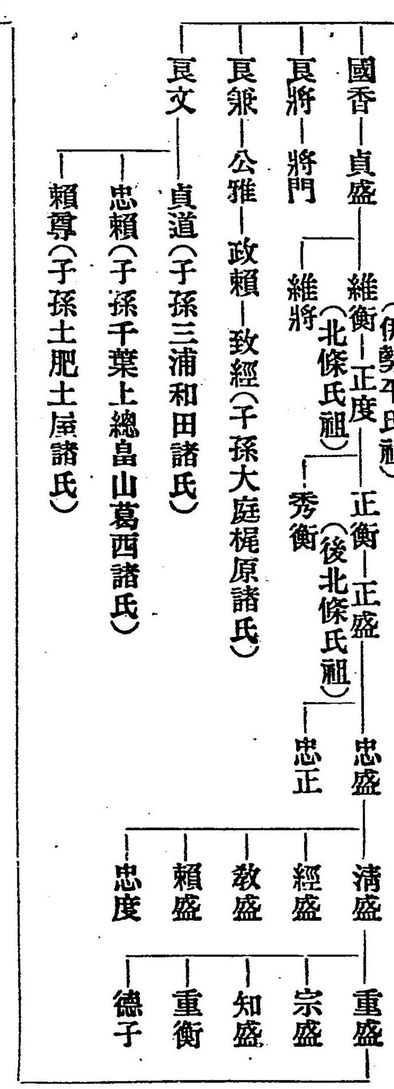

兼家
道隆—伊周
道兼—隆家
定子
道長
賴通—師實—師道—忠實—忠通—基實(近衛祖)
教通
彰子
妍子
威子
賴長
基房
兼實(九條祖)
良經—道家—良實(二條祖)
實經(一條祖)


基通—家實—兼經—基平
兼平(鷹司祖)

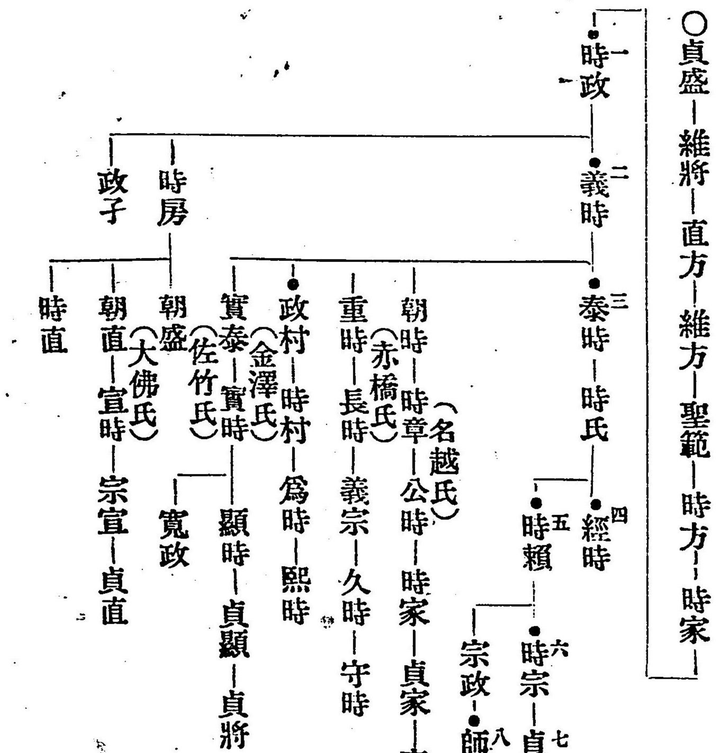
二 源氏


（清和天皇御子）
○貞純親王—經基—滿仲—
賴光—賴國—賴綱—仲政—賴政—仲綱
賴親（大和源氏祖）
賴信—賴義
義家—義親—爲義
義綱
義國
義光—義清（武田氏祖）
義重（新田氏祖）
義康（足利氏祖）
義賢—義仲
爲朝—舜天王
行家
義朝
義經
範賴
賴朝
義平
實朝
賴家
一幡
公曉
千壽丸

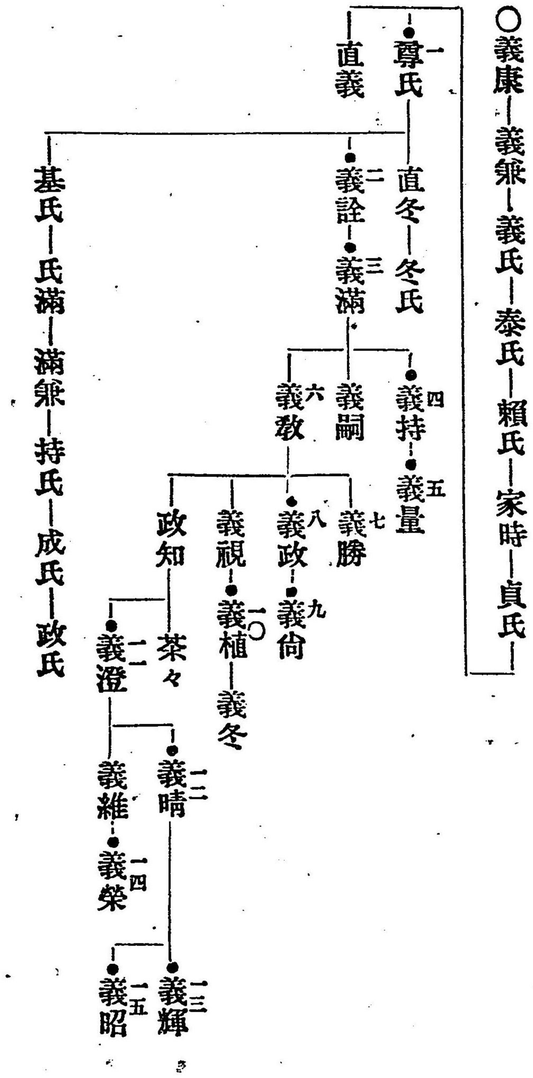
三 平氏


（桓武天皇御子）
○葛原親王—高見王—高望王—
國香—貞盛
維衡（伊勢平氏祖）
正度
正衡—正盛
維將（北條氏祖）
秀衡（後北條氏祖）
忠正
忠盛
將門
維將
貞兼—公雅—政賴—致經（子孫大庭梶原諸氏）
貞文—貞道（子孫三浦和田諸氏）
忠賴（子孫千葉上總畠山葛西諸氏）
賴尊（子孫土肥土屋諸氏）
清盛
經盛
教盛
賴盛
忠度
重盛
宗盛
知盛
重衡
德子
維盛—六代
資盛—盛綱（長崎氏祖）
親眞（織田氏祖）

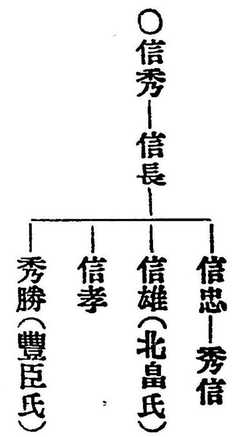
四 北條氏


○貞盛—維將—直方—維方—聖範—時方—時家—
一 時政
二 義時
三 泰時—時氏
四 經時
五 時頼
六 時宗—七 貞時—九 高時—時行
八 師時
宗政
時房
政子
朝盛
時直
朝直（大佛氏）—宣時—宗宣—貞直
寛政
實泰（佐竹氏）—實時
顯時—貞顯—貞將
政村（金澤氏）—時村—爲時—熙時
重時—長時—義宗—久時—守時
朝時—時章（赤橋氏）—公時—時家（名越氏）—貞家—高家

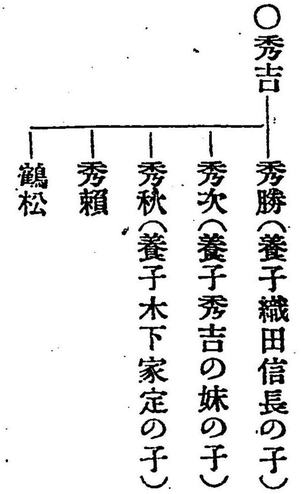
五 足利氏


○義康—義兼—義氏—泰氏—頼氏—家時—貞氏—
一 尊氏—直冬—冬氏
直義
二 義詮—三 義滿
四 義持—五 義量
義嗣
六 義教
七 義勝
八 義政—九 義尚
義視—一〇 義植—義冬
政知
茶々
一一 義澄
一二 義晴
一三 義輝
一四 義榮
一五 義昭
義維
基氏—氏滿—滿兼—持氏—成氏—政氏

六 織田氏


○信秀—信長—信忠—秀信
信雄（北畠氏）
信孝
秀勝（豐臣氏）

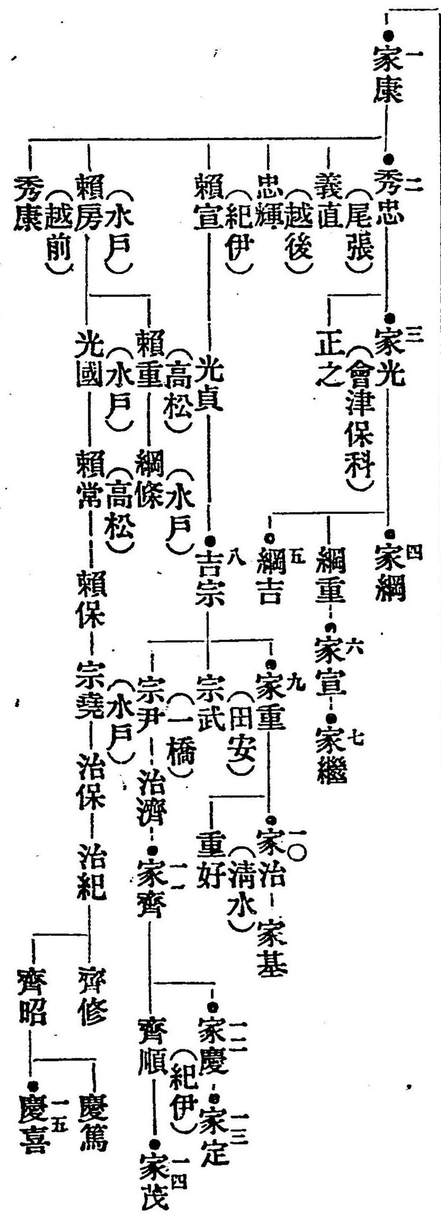
七 豐臣氏


○秀吉—秀勝（養子織田信長の子）
秀次（養子秀吉の妹の子）
秀秋（養子木下家定の子）
秀頼
鶴松

八 德川氏

（新田義重十世孫）

○親氏—泰親—信光—親忠—長親—信忠—清康—廣忠—



最近官立學校入學試驗日本歴史問題

（三十三年度）

▲陸軍士官學校候補生志願者試驗問題

（一）上古より桓武天皇に至る間の蝦夷征伐の大要を記せ

（二）源氏の勃興及平氏滅亡の大要

▲陸軍地方幼年學校試驗問題

（一）桓武天皇の御遷都及御東征事蹟の大要を記せ

（二）元弘の變の顚末を記せ

（三）德川吉宗の著名なる事跡を記せ

▲海軍兵學校試驗問題

（一）後村上天皇の御世に於ける天下の大勢を叙せ

（二）德川氏の世に於ける文學の復興を略述し著名なる學者四人を擧げよ

（五）左の人々の略傳を記せ

義貞、日蓮、

▲海軍機關學校試驗問題

（一）佛敎の傳來は何天皇の時代なりや及び其の流布の有樣を記せ

(二)南北朝時代に於ける學問の有樣は如何及び其の時代の有名なる學者及び著作を擧げよ

▲第一高等學校試驗問題

(一)左の事件を說明せよ

(乙)天保改革

(二)左の諸項を說明せよ

(甲)三管領　(乙)御三卿　(丙)莊園、領家　(丁)古河公方

(三)左の人々の事跡を略述せよ

(甲)阿部比羅夫　(乙)萩原重秀

▲第二高等學校

(一)大阪夏陣の始末を略記せよ

(五)左の人々の事蹟を記せ

(ロ)藤原冬嗣

(六)左の地に關する顯著なる事蹟を記し且つ其位置を示せ

(イ)屋島

▲第三高等學校試驗問題

(一)德川吉宗(八代將軍)の中興事業を述ぶべし

(二)我國立憲政體の成立せる次第を問ふ

▲商船學校試驗問題

(一)我國の外國と貿易を開きたる始末を略記せ

(二)佛教の我國に渡來せるは何れの時代に在りて文學上如何なる感化を及ぼせしや

▲東京郵便電信學校試驗問題

(一)德川慶喜大政を奉還せし理由如何

(二)明治七年臺灣の役の顚末を記せ

▲農科大學實科撰拔試驗問題

(一)明治維新の始末を記せ

▲東京美術學校入學試驗問題

(一)天平時代に於ける我邦佛教の盛衰

(二)德川光國の爲人及事蹟の著しきものを記せ

▲高等師範學校入學試驗問題

(一)嵯峨天皇の御事蹟を記せ

(二)源平兩氏の起原盛衰を略述せよ

(三)島原の亂の顚末を記せ

(四)左の人々の年代及事蹟を略記せ

藤原不比等、畠山政長、竹内式部

▲高等商業學校豫科入學試驗問題

(一)豐臣氏時代に於ける工藝の一班を述べよ

(二)左の事項を簡單に述べよ

(甲)國分寺　(乙)莊園

▲東京外國語學校入學試驗問題

(一)西洋紀元千六百年の頃我國及歐羅巴列國に於ける重要なる史蹟を記すべし

(二)足利時代に於ける我國支那との間に起りし交渉事件を問ふ

(三十四年度)

▲陸軍士官學校候補生志願者信驗問題

(一)藤原氏攝關の時代に於て源氏が東國に威信を得るに至りたる始末を畧記せよ

(二)我國中古戰時代に於ける四大義戰を戰げ擧げ各其の概要を說明せよ

(三)古へ朝鮮の起源並に西(前)漢三韓及日三國間の關係を記せ

▲陸軍地方幼年學校試驗問題

(一)平治の亂の顚末を畧記せよ

(二)南北朝分立に至りし次第を畧記せよ

(三)寬政の治を記せ

▲海軍兵學校試驗問題

(一)弘安の役を畧記せよ

(二)西南戰爭の大畧を示せ

▲第一高等學校試驗問題

(一)藤原氏攝關の起源を問ふ

(二)兩統更立始末を述べよ

(四)左の人名及び事項につきて知る所を記せ

(イ)德政　(ロ)最澄　(ニ)伊藤仁齊　(ホ)武內式部

▲商船學校試驗問題

(一)元龜天正の間に於ける顯著なる戰跡と其の原因結果を畧擧せよ

(二)德川氏治世中世を危くせしこと何回なるか其事蹟を問ふ

▲東京郵便電信學校試驗問題

(一)平治の亂の概畧を述べよ

(二)左の人々の事蹟を問ふ

佐久間象山、吉田松陰

▲東京美術學校試驗問題

(一)應神天皇の治蹟

(二)蒙古襲來
(三)明治卅三年清國に於ける聯合軍組織の原因

▲高等師範學校試驗問題

(一)日本武尊の事蹟
(二)嵯峨天皇時代の文學
(三)足利持氏の亂の顚末
(四)德川吉宗の治蹟

▲同校豫科試驗問題

(一)大化新政の主要なる條項
(二)大和の吉野に於ける失的事蹟
(三)島原の亂
(四)左の人々の事蹟を記せ

花山院師賢、和田義盛、僧親鸞

▲高等商業學校試驗問題

(一)屯倉の制を簡單に述べよ
(二)鎌倉と六波羅との關係を述べよ

▲東京外國語學校試驗問題

(一)奈良朝時代の顯著なる事件を年代の順を追ふて表示せよ
(二)德川初代の外交を畧述せよ

新撰日本歴史問答終

明治三十五年三月廿日印刷
明治三十五年四月廿日發行

（日本歴史問答）
定價金貳拾錢

著作權所有

編者 宮田修
發行者 大橋新太郎 東京市日本橋區本町三丁目八番地
印刷者 水谷景長 東京市本郷區丸山福山町六番地
印刷所 合資會社博進社工場 東京市小石川區久堅町百〇八番地

發兌元 東京市日本橋區本町三丁目 博文館

受驗問答叢書

全部廿四冊
袖珍洋綴一冊
紙數二百四十
頁六號字

本年中發行目次

第壹編●新撰日本地理問答　上村貞子君編
第貳編●新撰日本歷史問答　宮田修君編
第參編●新撰世界地理問答　武田櫻桃君編
第四編●新撰西洋歷史問答　長谷川誠也君編
第五編●新撰東洋歷史問答　松原岩五郎君編
第六編●新撰國文問答　鷹野勇雄君編
第七編●新撰漢文問答　太田才次郎君編
第八編●新撰算術問答　竹貫登代多君編
第九編●新撰代數問答　竹貫登代多君編
第拾編●新撰幾何問答　竹貫登代多君編
第拾壹編●新撰物理問答　寺崎留吉君編
第拾貳編●新撰化學問答　武田櫻桃君編

◎第拾三編以下は明年の出版に掛れり本年先つ此十二冊を發兌し受驗用として學生諸君の資料に供すべし。

定價（一冊金二十錢◉六冊金壹圓十錢◉十二冊金二圓十錢◉二十四冊金四圓◉郵稅壹冊金四錢◉一冊紙數二百四十頁）

博文館發兌

萩野博士著 ●大日本通史（上） 正價一圓五十錢 小包四百匁

有賀博士著 ●增訂帝國史略 全一冊 正價一圓五十錢 小包四百匁

萩野博士著 ●中等教育日本歷史 全二冊 正價一圓十錢 郵稅十六錢

萩野博士著 ●中等教育日本歷史要解 全一冊 正價五十錢 郵稅六錢

木寺學士著 ●日本歷史 全一冊 正價卅五錢 郵稅八錢

萩野博士著 ●日本歷史評林 全二冊 正價一圓廿錢 郵稅四十錢

足立栗園著 ●通俗日本歷史 全一冊 正價二十五錢 郵稅八錢

大和田建樹著 ●新體日本歷史 全一冊 正價廿四錢 郵稅八錢

松井廣吉著 ●大日本帝國史 全一冊 正價四十錢 郵稅十二錢

嚴谷漣山人著 ●幼年讀本日本歷史 全一冊 正價十九錢 郵稅四錢

049646-000-7

特61-320

日本歴史問答（新撰）

宮田　修／編

M35

BEM-0349